

北辰テスト勉強法 ー国語ー

出題傾向と出題形式の確認

北辰テストの国語は5つの大問で構成されています。これは**埼玉県公立高校入試とほぼ同じ形式**です。

令和6年度埼玉県公立入試の問題構成

大問	1	2	3	4	5
内容	文章読解 (文学的文章)	総合問題	文章読解 (説明的文章)	古文読解	作文
配点	26点	24点	26点	12点	12点

大問2「総合問題」は漢字、文法、話し合いの問題などが含まれています

学習の取り組み方

■文章読解

文章読解は、問題文の形式・レベルを公立入試に合わせて設定されています。設問で問われている内容に対して本文中の内容を参考にしながら、**本文の内容を自分の言葉でまとめる記述問題**も出題されます。受験期はたくさん問題演習を行うことが効果的です。**北辰の過去問演習を行い、「なぜその答えになったのか」を説明できるように**なるまで熟読し、問題の復習を行いましょう。

■総合問題

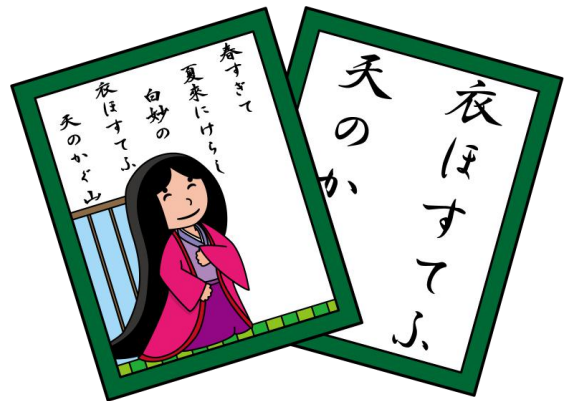
総合問題には漢字や文法事項などの知識事項が多く問われます。文法事項が問われる問題は減少傾向にありますが、修飾・被修飾の関係や主語・述語の発見など、**現代国語文法は文学的文章・説明的文章を読み解く上でも非常に重要**です。

■古文読解問題

古文読解問題は、まずは教科書レベルの文法事項・単語を覚えるようにしましょう。さらに、夏期に配付される宿題テキストの古文単語を覚えることで、北辰テストレベルの古文に対応することができます。

■作文問題

作文は、とにかく量をこなしましょう。たくさん問題を解くことで、短時間で作文を書くことができるようになり、発想力も身につきます。**書いたあとは学校の先生や塾の先生の添削指導を受ける**ようにしましょう。



高得点の秘訣

■過去問を全てやり切る

過去問を全て解き、「なぜその答えになったのか」をすべて説明することができるようになるまでやり切れれば、高得点を取ることができます。北辰テストの過去問題はファミリーマートのマルチコピーで購入することもできます。

■選択肢がある問題は選択肢を隠して解いてみる

説明的文章、文学的文章の設問は、「～はどのようなことか」「～と述べたのはなぜか」と問われる問題が圧倒的に多いです。対応力を上げるためにも、選択肢に頼るのではなく、**選択肢を隠し、本文中の言葉を使って記述式で答える練習**をしてみましょう。記述対策にもなりますし、何より圧倒的に国語力が上がります。

■語彙力を強化する、知っている単語の数を増やす

語彙力の強化には**深谷圭介著『小学校6年生までに必要な語彙力が1冊でしっかり身につく本』(かんき出版)**がおすすめです。

その他、学校の先生がおすすめする漢字・語彙に関するテキストを活用して、受験に出る単語の意味をしっかりと理解することが非常に重要です。

■読書よりも問題演習に時間を割く

長期的な国語の学習には、読書が最も効果的です。しかし、受験勉強に限るのであれば、**成績を伸ばす最適な勉強方法は「問題演習」**です。問題を解いていく中で、問いのパターンに気づき、解答の根拠の見つけ方が身につくようになります。これまでに本をたくさん読んでいるライバルたちに追いつくためにも「問題演習」に力を入れましょう。夏期合宿では毎日文章読解を行い、読解力を養います。

■その他のおすすめ参考書

柳生好之著『ゼロから覚醒 はじめよう現代文』(かんき出版)
 高校生向けの参考書ですが、中学生でも十分に読破できる内容です。

